



TITLE:

在日本的感想

AUTHOR(S):

柴, 向南

---

CITATION:

柴, 向南. 在日本的感想. 2013年度京都大学南京大学社会学人類学若手ワークショップ報告論文集 :<京都エラスムス計画>から生まれたもの 2014: 146-149

ISSUE DATE:

2014-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186326>

RIGHT:

## 在日本的感想

西历二〇一三年八月十三日深夜抵达日本，十六日下午离开日本，三夜三天的行程非常紧凑，且意义非凡。就个人而言，我很喜欢日本，对介绍与分析日本的书籍十分热爱，最喜爱的日本历史人物是源赖朝、平清盛与足利义满，作家中则是三岛由纪夫与新井一二三。

常听说日本有唐宋遗风，此番上洛，确实感受到了浓厚的历史韵味，当然日本独立演化出的人文精神是最吸引我们的了。我想这种人文精神具体表现在如下方面：第一，中山大将、福谷彬、巫觐等前辈的精心与周到的安排让我们非常感动，因为不仅会议完成了，想去的景点也去了，想买的日本产品也买到了，真的十分感谢日方的时间安排与不辞辛劳的全程陪同；第二，日本干净、整洁、卫生的程度绝对是世界前列的，社会井然有序，城市的建设非常人性化，高效地利用了空间进行规划，建筑用的色调很明亮，让人精神为之一振。而像垃圾回收制度则是利用了社会力量去解决垃圾问题，这才是一个好社会的好制度，也让我看到了社会学能够学以致用用的地方以及中国与日本之间的巨大差距。京都小巷里，日本政党政治的宣传海报也很有意思，且在去大阪的列车上，我还看见了关于日本宪法九条的标语横在稻田里，心里想，真正是务实的民风；第三，最关键事务一研讨会议方面，它的流程非常细致，不仅每个人发言汇报，而且有专业的点评和最后的总结陈词，这让我们都发现了论文中非常多的不足之处，以我的论文为例：如对宅坦村地理、人口背景的阐述不足，对整个村庄政治资本-经济资本-教育资本运作逻辑的揭示不够系统等，尤其感谢我的点评人阿部友香博士，她的细致是我远不能及的、她的分析方式如庖丁解牛、她的建议非常切中肯綮，对我的修改具有很高的指导意义；我还要郑重感谢落合惠美子教授，她也对我的论文进行了一定的指导，并告诉我不要仅从中国哲学去看世界，视野要宽阔，这是极为重要的；第四，大阪市民族博物馆的建设、管理与运营同样透露出日本的人文精神，首先它的室内外环境水准相当高，感觉负氧离子都比其他地方多呢。其次它对于全世界各文明区、各文化区、各国、各民族的研究事无巨细、细大不捐，我们在大洋洲、东亚、中东、非洲馆看了很多或熟悉或陌生的文化遗存。世界很广阔、很多元、很美，这是我们的基本感受。在介绍中国的展览区，虽然好像没有看见历代汉服（不知道是否记错了），但是对于中国其他兄弟民族的文化展示是很仔细的，也加深了我对中国的了解。在民族博物馆，“日本不是一个单一民族国家”终于亲耳证实了，我觉得这是一个非常好的思想，所有居住在日本国土上的人都是日本人，这样的想法让我非常感动。我觉得中国也应该反思目前的民族政策，而目前的民族政策人为地制造了很多莫名的民族界限，这是非常不利于中国未来发展的，在这一点上我们须向日本学习。以上四点，我觉得都是日本高度人文精神的体现，而且这种精神在当今的中国是急需的，也让我深刻地反省了自己是否太过于浮躁，不能但用此心、一心做事，终究远远不能达到这样的高度，这样的落差可以视为我今后的动力了。

从人工填海造就的伟大工程—关西国际机场飞回浦东国际机场后，发现即便是上海也有很多地方距离日本标准很远，比如说机场安检处的流行疫病提醒与防御宣传单的种数、数量，在上海几乎是没的，而日本却至少有十五种以上（具体数目已不记得），且都分了颜色标记，工作人员的服务态度也是没有办法相提并论的，至少我也希望看到自己国家的工作人员能够

带着笑脸相迎，但有些失望（当然只是一部分中国工作人员是这样）。这一次去日本，据中方同学的讨论总结，无论是在生活还是研究学习方面都大有裨益。站在中国的立场，必须以日本为中国现代化进程中的良师，学习如何在传统与现代之间保持平衡，而日本首屈一指的京都大学的各位前辈，则是我们永远的学习与追随的榜样。

再次感谢您们的全程陪同与精致安排。

柴向南敬上 西历二〇一三年十月二十五日 于中国南京

日本滞在の感想

2013年8月13日夜遅くに日本へ到着し16日の午後に日本を離れたこの3日3晩の旅はとても充実しなおかつ並はずれて意義深かった。個人的なことを言うと、私は日本が好きで、日本のことを紹介したり分析したりする書籍を愛読し、最も好きな日本の歴史上の人物は源頼朝、平清盛そして足利義満で、作家の中では三島由紀夫と新井一二三が好きだ。

日本には唐や宋の文化の面影が残っていると常々聞いており、今回の京都訪問で、確かに濃厚な歴史情緒を感じた。当然のことながら、日本が独自に創り出した精神にもまた私の心は惹かれた。私はこうした精神の具現化が以下の面に現れていたと思う。第一に、中山大将、福谷彬、巫覡らの諸姉諸兄の心を込めた用意周到な日程は我々を感激させ、ワークショップが成功しただけでなく、行きたい所へ行き、買いたい日本の製品を買い求めることができた。日本側のスケジュール設定と労苦をいとわなかった仲間たちに心より感謝している。第二に、日本の衛生さは世界有数のレベルで、社会秩序が整い、街の建設にも人間味があり、空間は有効に利用され、建築の色調も明るく、心も奮い立つ。ゴミ回収制度は社会の力を使ってゴミ問題を解決するものであり、これこそ良き社会の良き制度であり、社会学の応用する領域および中国と日本の間にある大きな格差を見せつけるものである。京都の街角の日本の政党ポスターも興味深く、大阪へ行く車中では、日本国憲法第9条に関する標語を水田の中に見て、これこそまさに実践の気風であると感じた次第である。第三に、最も重要な仕事、つまりはワークショップについては、その流れは非常に緻密で、各人の報告だけでなく、専門的なコメントと最後の総括は、我々全員に自身の研究の至らない点を認識させてくれた。私の場合を例にとると、宅担村の地理や人口についての記述不足、村落全体の政治資本・経済資本・教育資本に関するロジックの説明が系統だっていなかった。私のコメンテータであった阿部友香博士にはひととき感謝している。彼女の緻密さは私が及ぶものではなく、彼女の分析方法は牛を解体する如くで、彼女の意見は大変的を射ており、私の研究をさらにブラッシュアップするにあたって、大変有益な助言だと感じた。私はまた落合恵美子教授にも篤く感謝の意を表したい。彼女も私の研究についてご指導くださり、中国の世界観からのみ世界を見ることをせず、視野を拓けるようにとご指導くださった。これは極めて重要なことである。第四に、大阪の民族学博物館の建設、管理、運営には同様に日本の精神が顕われていた。まず、屋内環境の水準は極めて高く、マイナスイオンが他の所よりも多いように感じた。次に、世界の各文明圏、文化圏、国、民族についての研究は、大小にかかわらず、細大漏らさず取り扱われており、我々は太平洋、東アジア、中東、アフリカ館で、よく知っている物も、よく知らない物も、その展示物を見ることができた。世界は広く、多元的であり、美しい、というのが私の基本的な感想である。中国紹介のブースでは、まるで歴代の漢服を見たことがないかのようであったが(覚え間違いしているだろうか)、中国のその他の兄弟民族の文化に関する展示はとても細かく、自分の中国理解が深まった。民族学博物館では、「日本は単一民族国家ではない」ということをついに自分の耳で確認した。私はこれは非常にすばらしい思想であると思う。日本の国土に住んでいる人はすべて日本人であるという考え方に、私は感心した。中国も現在の民族政策を一度反省しなければならず、現在の民族政策は多くの曖昧な民族の境界を作り出しており、これは中国の今後の発展に対しては不利に働くだろう。我々はこの点



について日本から学ぶべきだ。以上の4点のすべては、日本の高度な人文精神の体现であり、なおかつこれらの精神は現在の中国が切実に必要としているものであると思う。そして、これらの点は、自分が軽薄すぎないだろうか、恒心をもって一つの事に専念しない限りこのように高度なレベルにいたることは到底無理だとあきらめてはいないだろうか、と深く反省させてくれたし、このような落差は私の今後の動力源となるだろう。

巨大な人工島である関西国際空港から上海浦東空港へ帰り着くと、上海には日本の水準からかけ離れているところが多いことに気付いた。たとえば、空港の安全検査所の防疫宣伝チラシの種類、数量を比べると、上海ではほとんどないのに、日本では少なくとも15種類以上（具体的な数は覚えていないが）あり、さらにすべて色別に表示されていた。職員の勤務態度も比べ物にならず、少なくとも私は自分の国の職員がにこやかに迎えてくれるかと期待したが、失望するだけだった（もちろん、一部の中国人職員がこのようにしているだけである）。今回日本へ行き、中国側の院生の議論を基に総括すると、生活のことか研究教育のことかに関らず大いに益するところがあった。中国の立場に立つと、日本を中国現代化プロセスの良師として、いかにして伝統と現代の間で平衡を保つかを学ぶべきであり、日本屈指の京都大学の諸姉諸兄は、学び追随すべき我々の永遠の模範なのである。

改めてすべての仲間と念入りのスケジュールに感謝したい。

柴向南 2013年10月25日 中国南京にて

（翻訳：中山大将、巫覲）